

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを聴き手に伝えようと、話し言葉を用いたり、身振り手振りを交えたりして意欲的に表現する児童が増えた。 ・作文では、段落分けや改行、句読点の打ち方が適切にできない児童がいる。 ・俳句や短歌の学習では、自分が経験したことを基に、言葉や絵を用いて表現している。 ・物語文では、情景描写や比喻表現から主人公の心情の変化を正確に読み取れるようになってきた。 ・読書に親しみ、様々な分野に関心を広げている。 ・文法や漢字の定着、語彙力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科を横断して話す場面を設定する。異学年の児童や中学生に聴いてもらい、聴き手に応じた話し方ができるようにする。 →総合的な学習の時間でのプレゼンテーション →図画工作での紙芝居作成と1年生への読み聞かせ ・目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、内容や表現に一貫性があるかなどを、推敲の観点として意識付ける。 ・学期に2回ずつ俳句、短歌をつくる。季節の言葉を大切にするとともに、限られた文字数の中で、表現を工夫できるようにする。皆で作品を見合うことで、良い表現に触れ、次の作品の参考となるようにする。 ・タブレットを活用し、多くの作品や表現、季語を知る時間を設ける。 ・並行読書を行い、主体的な読みができるようにする。多くの文章に触れることで、ものの見方や考え方、優れた叙述などと出会い、また、作者や筆者の特徴に気付く機会とする。 ・文法、漢字についての学習を、けやきタイムや業間の時間を活用して定期的に行い、定着を図る。 ・辞書を引く習慣を身に付けることができるよう、環境を整える。 ・分からない言葉については、文脈から類推したり、言い換えしたりする時間を設け、語彙に広がりをもたせることができるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことから疑問を見付け、学習問題をつくることができている。 ・政治や歴史が自分の生活と関わっていることに気付き、ニュースや選挙、世界遺産などに関心を高めている。 ・課題に応じた資料を選択し、必要な情報を正確に読み取ることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートへの学習感想やまとめを書く活動を通して、児童の疑問や学習理解度を把握していく。 ・児童の興味・関心を揺さぶるような資料の提示をする。 ・社会情勢への興味関心や自分の考えをもてるよう、朝の会や帰りの会で出来事について話題提示をする。 ・なぜその資料を選択したのか理由を問う。また、資料から分かる事実だけでなく、何が分かるのかまで問い返す。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用して、複数の資料を比較したり、そこから出た疑問を追究したりする機会をつくる。 ・地図帳を活用して、資料集での位置と、現在の位置を比較できるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を生かして課題解決を図ることができ、複数の考え方で答えを導き出せるようになっている。 ・分数同士のわり算では、被除数と除数の区別・判断をし、立式することを苦手になっている児童が多い。 ・既習の通分や約分に課題が見られる。 ・コンパスや分度器を正確に扱えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や式、言葉を用いて説明するよさを理解できるよう、引き続き指導する。 ・根拠をもって演算決定できるよう、題意や単位に着目して数直線に表すよう言葉掛けをする。また、答えの見通しがもてるよう、自力解決の前に話合いの時間を設ける。 ・定期的なけやきタイムや宿題で問題に取り組み、解法を身に付けられるようにする。 ・算数的活動を多く取り入れ、日常生活の中で活用できるようにする。 ・図形に関わる学習では、タブレットを活用し、量感が実感できるようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に意欲的に取り組み、様々な事象への関心を高めている。 ・事象から疑問を見だし、解決するための実験方法を考えている。そのため、考察内容が明確になってきている。 ・顕微鏡などの器具を正しく扱えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題、教材提示を工夫する。身近なものから課題をみつけられるよう、教材開発を行う。 ・引き続き、仮説を確認し、それを確かめるための実験方法を複数考えられるようにする。 ・タブレットを活用し、実験前に、器具の正しい使い方を理解できるようにする。 ・実体験できない内容などは、映像資料や調べ学習を通して理解を深められるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・やわらかく丁寧に歌うことができる。それを生かしながら、強弱やフレーズなどをより明確に表現できるように深めていく必要がある。 ・音の長さがもたらす曲の感じなど、曲の特徴や構成を理解することができる。 ・互いの音を聴き合いながら合わせて演奏することができる。それぞれの楽器がもつ役割を理解して演奏に生かせるとさらに表現が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かに響かせる部分に自信がもてるよう、その部分だけを取り出して歌い方を確認したり聴き合ってよさを伝え合ったりする。 ・今後は鑑賞教材でも曲の特徴や構成の理解ができるように学習を進める。 ・旋律、伴奏、副次的な旋律などを理解し、役割に応じた大きさのバランスを工夫できるようにする。理解した知識と表現をより結び付ける取り組みを続ける。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・図工の学習に意欲的に取り組んでいる。 ・自分の感覚を通して考える機会が少ない。 ・既習事項を活用して表現することが難しい。 ・友達や諸外国の作品に関心をもって見ることができ 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学びから自分のイメージがもてるようにする。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 ・自分や友達のよさに気付くよう教師が言葉かけを行 	

	る。	う。鑑賞活動の設定。	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を改めて振り返って課題を見付け、改善しようとしている。 ・互いの考えを知ることで、新たな課題を見出す姿が見られた。 ・実習などが制限されるため、実感を伴って理解することが難しく、技術の定着を図ることに難しさがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生活に目を向け、家族の一員としてできることなどを、長期休業前後に計画し、振り返る時間を設ける。 ・生活と結び付けて学習できるように、家庭と連携しながら学習を行う。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しみをもって取り組んでいる。 ・学習の積み重ねが成果となって表れ、技能が高まってきた。 ・課題や友達のよさを具体的に捉えることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接触などが軽減できる運動内容を開発する。 ・タブレットを活用し、自分の動きを運動後に振り返ることができるようにする。 ・体育ノートを活用し、児童一人一人が自分のめあての振り返りや友達のよさを具体的に記録している児童を称賛し、広める。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・英語でのスピーチに慣れ、意欲的に表現を工夫しようとする児童が多い。 ・日本語と英語表現の違いを理解し、楽しみながらコミュニケーションを図ろうとする児童が多い。 ・苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫を楽しむことができるよう、タブレットを効果的に使用する。 ・ALT、講師と協力し、アクティビティの開発をする。 ・書く学習を日常的に取り入れ、抵抗感をなくして自信をもたせるように指導する。 ・日常的に英語に触れることができるよう、掲示物や指導法を工夫する。 ・様々な場面でそれぞれの「よさ」を認め合えるよう、言葉掛けをする。 	